



2022 - 23 年度 国際ロータリー第 2750 地区

「クラブ運営の現状と計画について」

アンケート報告書

2022 年 9 月

国際ロータリー第 2750 地区

会員委員会 委員長 伊藤千恵

ロータリー情報委員長 堀口昇治

=目次=

第 1 章 調査計画.....	1
第 2 章 集計報告.....	2
第 3 章 アンケート票 (参考)	12

第1章 調査計画

1、調査目的

2022年は、新型コロナウイルス感染者数が減少、拡大を繰り返す「ウイズ・コロナ」という状況にあります。そのような状況の中、ロータリークラブ活動にも相当な影響を受けざるを得ないのが実情です。

本調査の目的は、引き続き「ウイズ・コロナ」の中、2022-23年度の第2750地区ロータリークラブの活動が、どのように計画され、実行されるかを展望するためのデータを収集する事にあります。

収集されたデータの集計・分析の結果が、各ロータリークラブの活動に資することができれば、幸甚と考えております。

2、計画概要

タイトル	クラブ運営の現状と計画について
アンケート方法	Google フォームによるオンラインアンケート
対象	国際ロータリー第2750地区所属クラブ（除く：P B Gグループ）
期間	2022年7月15日（金）～8月5日（金）
依頼数	88クラブ
回収数	59クラブ（回収率67%）（8月10日現在）
調査実施	国際ロータリー第2750地区 会員委員会、ロータリー情報委員会
調査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 例会運営について 2-1. 女性会員の受け入れについて 2-2. 40才未満会員の受け入れについて 3. DE I（多様性・公平さ・インクルージョン）について 4. 「クラブ戦略計画」について 5. ウクライナ支援について 6. ロータリー情報委員会について

第2章 集計内容

1. 例会運営について

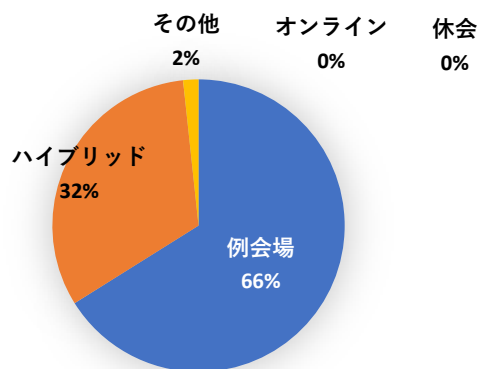
①開催形式

例会運営については、例会場開催が66%、39クラブで最多。ハイブリッドが32%、19クラブ。オンラインは無し。

一昨年調査に比べると、例会場開催が+10%増加。ハイブリッド形式が+13%という結果で、「ウイズ・コロナ」の中、ほぼこの二種の形式が定着している。

また、あるクラブでは、月二回のハイブリッド、月二回のオンラインで開催している。

図表2-1-1 現在の例会開催方法



例会場	39
オンライン	0
ハイブリッド	19
休会	0
その他	1
総数	59

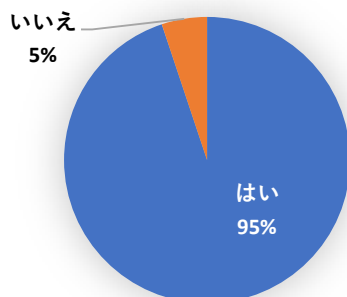
②「定例会」「オンライン」開催と回答されたクラブ (39クラブ)

例会に卓話者を呼んでいるクラブは、95%、37クラブ。大多数のクラブが例会の主要行事である卓話を継続して実行している。

また、ビジターやゲストを受け入れているクラブは、95%、37クラブに達し、メイクアップ機会もコロナ以前に近い状態に戻っている。

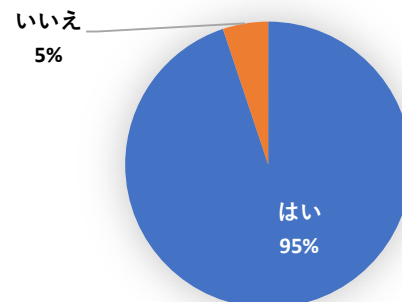
一昨年度のこの頃は、卓話者、およびビジターを受け入れていないクラブが、3割~4割であったが、現在は、ほぼ通常の状態に戻っている。

図表2-1-2 例会に卓話者を呼んでいるか



はい	37
いいえ	2
総数	39

図表2-1-3 例会にビジターやゲストを受け入れているか



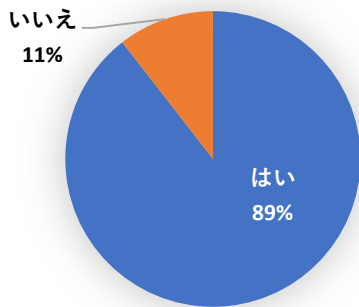
はい	37
いいえ	2
総数	39

③「ハイブリッド」と回答されたクラブ（19クラブ）

ハイブリッド例会のクラブでも、卓話者を呼んでいるクラブは、89%、17クラブ。ビジターやゲストを受け入れているクラブは、89%、17クラブ。

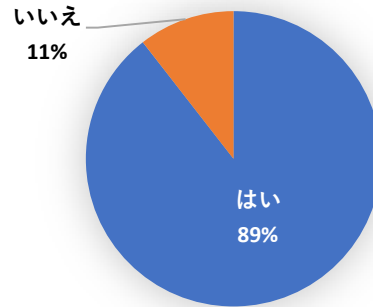
一昨年度のこの時期は、卓話者、およびビジターを受け入れていないクラブも、3分の1程度はあったが、現在は受け入れているクラブが、大幅に増加している。

図表2-1-4 例会に卓話者を呼んでいるか



はい	17
いいえ	2
総数	19

図表2-1-5 例会にビジターやゲストを受け入れているか



はい	17
いいえ	2
総数	19

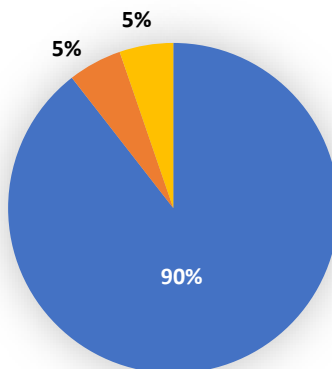
④ハイブリッド例会（19クラブ）の出席者の比率

ハイブリッド型式の場合、実際に例会場の出席会員とオンライン出席会員の比率を質問すると、グラフのような結果になる。

90%、17クラブが、例会出席者が70%程で、オンライン参加者が30%程という結果で、実際の出席者が多数を占めている。この回答クラブには、実際の出席者が90%というクラブも複数存在する。

「ウイズ・コロナ」の中、多くの会員は対面での例会出席を望み、実行していることが分かる。

図表2-1-6 会場出席者とオンライン出席者の比率



- 約会場出席者70%：オンライン出席者30%
- 約会場出席者50%：オンライン出席者50%
- 約会場出席者30%：オンライン出席者70%

約会場出席者70%：オンライン出席者30%	17
約会場出席者50%：オンライン出席者50%	1
約会場出席者30%：オンライン出席者70%	1
総数	19

2-1. 女性会員の受け入れについて

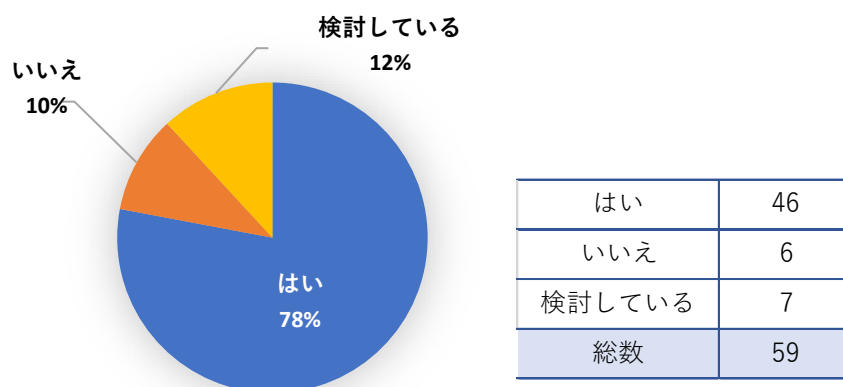
女性会員の受け入れについては、78%、46 クラブで、既に受け入れている。

第 2750 地区は、女性会員比率が、国内で最も高い地区であるが、まだ受け入れていないクラブが、22%、13 クラブ以上は存在する。

ただし、現在受け入れを検討中のクラブが、12%、7 クラブあり、今後のクラブでの検討結果によっては、女性会員受け入れのさらなる拡大が期待できる。

また受け入れていないクラブが 10%、6 クラブあり、これらクラブの固有の事情を考慮した上でのアプローチが課題となる。

図表2-2-1-1 女性会員の入会を受け入れているか



●女性会員受け入れに「はい」または「検討している」と回答したクラブの取り組み方

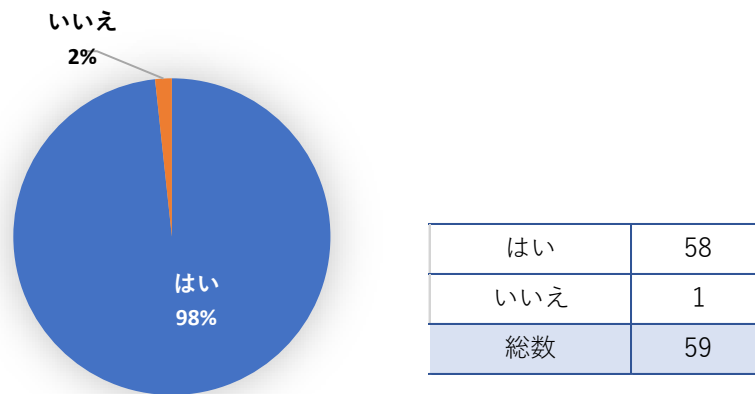
- 特に性別により募集の仕方を変えることはしていない (19 クラブ)
- 複数の女性会員による募集を行っている (4 クラブ)
- 戦略計画委員会、クラブ運営長期計画委員会、増強委員会で議論し、方針を決め、会員に理解を得ている。(クラブフォーラム、クラブ協議会など) (5 クラブ)
- 女性会員の会費を下げる (2 クラブ)
- 女性会員が多数いることをアピールしている
- 1度に複数 (2~3名) の女性が入るように取り組んでいます (2 クラブ)
- 今年度、当クラブは 60 周年を迎えます。記念の年度に初の女性会員を迎えることを決め、候補者を選定しています。
- 積極的に例会にお誘いしている
- 既に入会候補者に女性がいます。会員ひとり一人が女性への声かけを心がけています。
- JC 会員へのお誘い、卓話講師のお願い
- 女性会員の参加しやすい環境整備等
- 女性会員に会員候補者を推薦してもらう。
- 女性会員の会費を下げる
- 女性の視点をクラブ運営に活かしていく為に意見を伺ったりしています。
- 性別関係なく当 R C に応しい方を入会勧誘している。現在女性会員は 50% を超えている。

- 例会での呼びかけや女性会員からの積極的な勧誘
- 女性にも積極的に役職を受けていただき、女性もいやすいクラブとなっており誰もが入会しやすい雰囲気づくりをしています（全体的にアットホームなクラブです）

2-2. 40才未満会員の受け入れについて

「貴クラブは、40才未満の会員の入会を受け入れていますか？」という質問には、受け入れているクラブが98%、58クラブと圧倒的に多い。若手会員の増強という点で、RIの方針に沿ってクラブ運営が行われている。入会のハードルが下がって40才未満の会員が増えれば、各クラブの雰囲気や活動にも従来にはない特徴がでてくると思われる。

図表2-2-2-1 40才未満の会員の入会を受け入れているか



●40才未満会員の受け入れに「はい」、「検討している」と回答した58クラブでのやり方

- 特別な活動はしていない（16クラブ）
40才未満の会員の入会のための特別な活動もしていません。
- 青年会議所・商工会議所青年部・法人会青年部会への働きかけや懇親会（6クラブ）
・受け入れて40才未満だとJCなどの青年団体への入会を希望する方が多い。ロータリー＝シニア世代というイメージがある。まずは青年世代の団体とのネットワークを築く事が大事なのではないかと考えています。
- その年代の会員に取り組んでもらっている（10クラブ）
・若手だけの飲み会等の実施若い会員が積極的に勧誘（4クラブ）
・若い方が若い方に意識的に声かけをする
・今後意識して若年層を勧誘する予定です。
・若い世代の方を積極的に例会にお誘いしている
- ローターアクト連携（3クラブ）
・主にローターアクト出身者です。
・ローターアクトとの連携および入会希望説明会説明会
- 例会、委員会炉辺会及び各同好会に招待してクラブの活動を理解して頂く。
- 各会員がフラットに各委員会の業務などを負担し、若手に業務が偏らないようにしている。

- 会費の減額
- 会員・元会員のご子息、ご息女（2クラブ）
- 会費の減額案もありましたが賛同を得られず、特に特典などは無し。
- 今年度の会長方針に「若いロータリアンの育成」を取り入れ、勧誘活動を実施している。
- 40歳未満を目標にはしていませんが、会員増強は我がクラブの重点強化項目で15名を目標としDiversityを念頭に進めています。また、入会候補者を意識し、HPの刷新をしたばかりです。

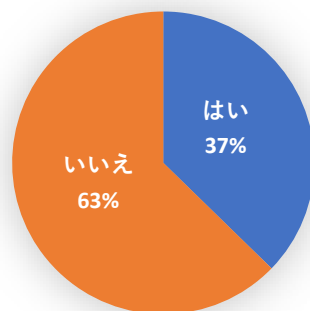
3. DE I（多様性・公平さ・インクルージョン）について

R I会長と富澤ガバナーが示しているDE Iに関する計画の有無を、「貴クラブはDE Iを主題とする活動を計画していますか？」と質問をすると、回答は下記のとおりである。

「はい」と答えたクラブは、全体の37%で22クラブ。それに対して、「いいえ」が、63%で37クラブであり、現状では計画していないクラブが多数を占めている。

この結果が適当な状況なのかは判断できないが、各クラブがDE I理念の理解、および具体的活動を仕組むための理解を、より深めるための働きかけが必要がある。

図表2-3-1 DE Iを主題にした活動を計画しているか



はい	22
いいえ	37
総数	59

● 「はい」と回答したクラブ（22クラブ）におけるDE Iを主題にした活動

- 幹事経験者全員をクラブ戦略計画委員会に任命し、これからの当RCについてアンケートを取り車座で話し合い卓話でしています。
- 障害者と共に奉仕プロジェクトを実施(ユニカル、音楽コンサート)。障がい者の支援、共生、社会進出を支援する活動。(3クラブ)
- 本年度は特にインクルージョンの部分大切に活動しています。
- 9カ国の出身会員が所属しているクラブで、その国の文化を理解する例会などを行っている
- 会員について国籍、性別、年齢などの差別を全く行っていないこと
- クラブフォーラムにてDEIの必要性を議論して理解を会員皆様に周知している。
- 子供食堂及び子供への職業紹介を検討している。

- D 初の女性会員の入会。E 4つのテストの実践。I 親睦活動を中心とした隔たりのないコミュニケーション。
- 多様な職業の方に目を向けている。男性女性の性別にとらわれない。
- 会員増強に向けて RC 活動を共にしていただける人を広く募集する
- 留学生支援、ミャンマ八角栽培支援、日本語スピーチコンテストなど
- 幅広い年齢層が等しく楽しめるような組織風土の形成など。
- 当クラブは設立当初から、会員構成の面においても、性別、国籍、年齢など多様性豊かでバランスのとれたクラブを目指して活動しています。 奉仕活動においても、Run for the Cure (乳がん撲滅活動)、グアム大学奨学金、ケニアの水支援、今年度は一人親の児童の学習支援活動を始めるなど、会員の意見・ニーズを広く取り入れた活動に取り組んでいます。
- フードバンクへのお米の寄付
- 女性を含む多種多様な会員を受け入れ、クラブ自体も全てを受け入れるアットホームな雰囲気です。
- 東京西ロータアクトクラブと連携した奉仕活動の計画実施
- 現在 検討中・計画中 (2 クラブ)

4. 「クラブ戦略計画」について

「クラブ戦略計画をどのようなやり方で検討していますか？」に対する自由回答。

- 戦略計画委員会・特別委員会にて審議 (10 クラブ)
 - ・パスト会長・会長・幹事で委員会を構成。
 - ・昨年度からクラブ戦略計画委員会を中心に年に2回以上炉辺会議をし、クラブ内ではクラブ協議会定期的審議し、これからのクラブについて意見を求めている。
 - ・前年度、今年度、次年度の会長・幹事でクラブ戦略委員会を組織しクラブ戦略計画を立て、2ヶ月に一回の頻度で理事会で進捗状況を確認する。
 - ・長期計画委員会のもと定期的に炉辺等ではなしあっています
 - ・過去の事例を紐解き、現状を分析し、将来に向けての会の充実や拡大を模索しつつ計画を立てている。
- クラブ協議会・クラブフォーラムを通じて会員全体で議論 (8 クラブ)

例会において「クラブ協議会」や「クラブフォーラム」を定期的に行い、広く会員から意見を吸い上げ、理事会で具体的な計画に落とし込んでいます。
- パスト会長やエレクトなどと意見を共有しながら、検討している (12 クラブ)
 - ・二代前会長・幹事、直前会長・幹事、当年度会長・幹事、次年度会長により協議
 - ・会長、幹事、会長エレクト、幹事エレクトで検討する
 - ・会長、幹事を中心に理事会で話し合う
 - ・3代の会長幹事を終身とした会議
 - ・昨年度の活動につき会員からアンケート結果をとり、新旧会長・幹事らで検討している。
- 会長がキーマン (5 クラブ)
 - ・会長一任

- ・会長の方針を基に、クラブみんなで検討しています。
 - ・会長が原案を作成し、幹事、委員で検討する。
 - ・半期に一度のクラブ協議会で会長から会員に周知し継続して取り組む予定です
 - ・会長が戦略計画を検討し、理事会はじめ、例会等でも今年度のテーマ「たすきを繋ぐ 歴史を学び、今日を知り、そして明日へ」をことある毎に伝えるようにしております。我がクラブの伝統の歴史を学びながら直面する課題を一つづつ見極めて進める年度として取り組んでおります。
- 継続事業を柱とし、年度毎の RI 会長、地区、会長テーマを反映させながら計画しています。
 - 現在検討中です
 - 委員会・委員長を決めて進めていますが中々前進していないようです。
 - 親睦、奉仕、会員増強など、会長の掲げた計画・目標を、特に委員会中心に実現、達成に向けて活動します。
 - 現会員 16 名という中で、まずは増強
 - 関連委員会でそれぞれ検討し、持ち寄る。
 - 奉仕をベースに増強活動強化している
 - 年度ごとの会員増強目標を具体的な数字で定めて実行している。
 - 5 年後、10 年後のクラブの状況を考え戦略的な増強目標の確立
 - ホームページ制作と内容の充実

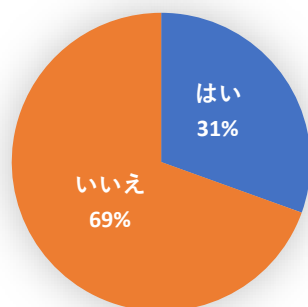
5. ウクライナ支援について

質問「ウクライナ支援の活動を「計画していますか？」に対して、「はい」が 31%、18 クラブ。「いいえ」が 69%、41 クラブ。

既に昨年度から支援に取り組んでいるクラブもあるが、この種の支援活動は息長く続ける事が重要なので、なお継続していただきたい。

また計画中のクラブには、支援の実行と共に、長期的な計画を工夫していただきたい。

図表2-5-1 ウクライナ支援の活動を計画しているか



はい	18
いいえ	41
総数	59

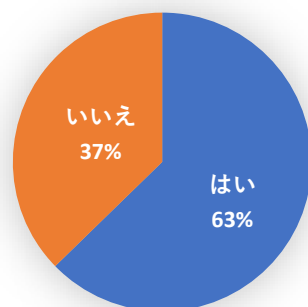
●支援を計画しているクラブ（18クラブ）の活動のまとめ。

- 寄付（9）
 - ・ウクライナ国もしくはウクライナを支援する団体に、寄附を送っています。
 - ・7/13 ウクライナ関連の卓話、7/3 開催風越カップの寄付金をウクライナ関係事業に寄付予定
 - ・毎回の例会で寄付を募っている
- 自治体より要請があった場合、要請に基づき、就労支援等、可能な範囲で協力する予定です。
- 卓話にてウクライナ関係者を招いてまずは現状を理解する。
- 寄付中心にはなるが、子どもたちに元気を与えられる活動を計画中。
- 隣国のポーランド大使館に対し大使の講話依頼及び寄付
- 「JBBY(日本国際児童図書評議会)希望プロジェクト」(困難を抱える子供を本で支援する活動)のなかで、日本に避難してきたウクライナの子供達に本を寄贈するプロジェクトへの参加を検討している。
- 寄付集めと会員によるウクライナ難民の雇用
- 会員に対する UNICEF を通じた寄付のお願い
- 検討中（2クラブ）

6. ロータリー情報委員会について

質問「貴クラブにはロータリー情報委員会がありますか？」に対して、「はい」は、63%、37クラブ。「いいえ」は37%、22クラブ。

図表2-6-1 ロータリー情報委員会はあるか



はい	37
いいえ	22
総数	59

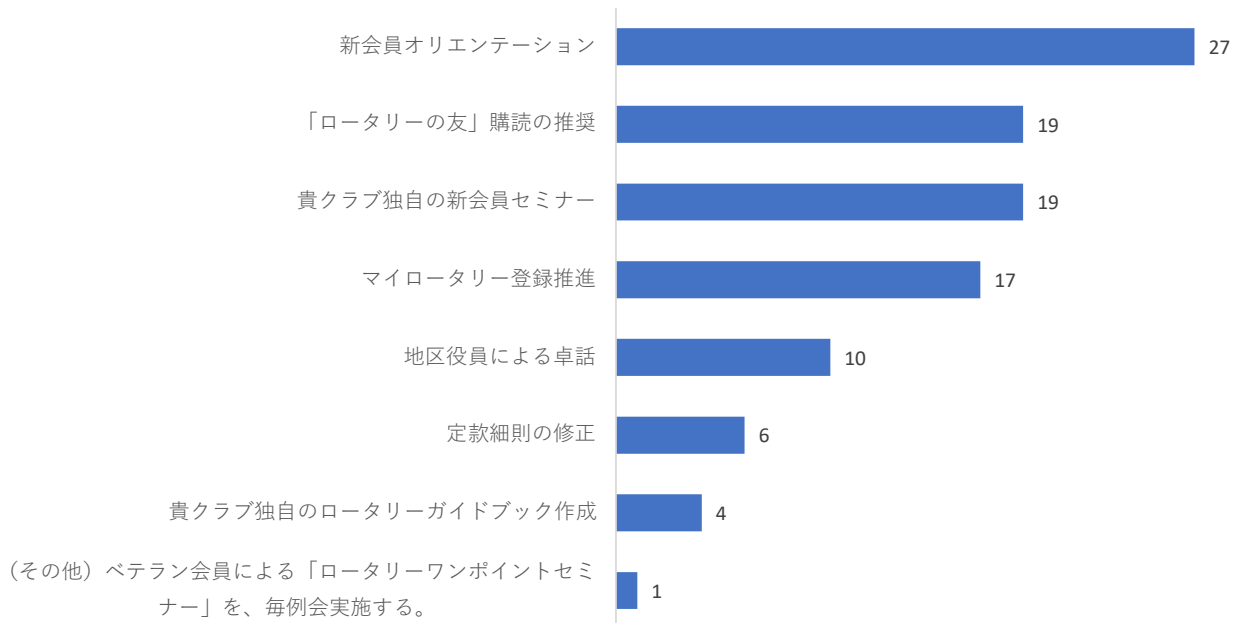
ロータリー情報委員会のある37クラブの活動内容は、次の結果となる。

活動の多い順に、「新会員オリエンテーション」が27クラブ、「ロータリーの友購読推奨」が19クラブ、「クラブ独自の新会員セミナー」が19クラブ、「マイロータリー登録推進」が17クラブとなる。

なお、「クラブ独自のロータリーガイドブック作成」のクラブは、4クラブである。今後、多様な世代や職種の新会員が、クラブになじみ、ロータリー理念を理解し、受け入れていくには、より丁寧

な伝え方が必要であろう。そのためにもロータリー理念や各クラブの歴史や特徴を記述した「クラブ独自のロータリーガイドブック」のようなツールが有効と言える。

図表2-6-2 ロータリー情報委員会はどのような活動を計画しているか



● 「ロータリー情報委員会が無いクラブ」(22クラブ)での「ロータリー情報」の伝え方

- 会長・幹事が会員に例会時やメールで伝える (10クラブ)
 - ・会長が例会の中で報告している
 - ・会長、幹事、地区出向者が中心に情報収集して、例会時に報告、会員メーリングリストで配信。
 - ・会員組織委員会内に「ロータリー研修担当」を置き、定期的にRIのロータリー情報を伝えてもらっています。また、地区出向者からも、例会やメールにて、地区の状況を伝えてもらうようにしています。
- 地区出向者が多数いる為 例会などで報告してます (2クラブ)
 - ・地区出向者や「ロータリーの友」を通して
- 例会時の会長による会務報告と、広報委員会よりロータリーの友の記事紹介、会報を通じて伝えています。
- 広報イメージ委員長が、ロータリーの友などの記事を例会で紹介している。
- 事務局に届いた情報は、全会員に配布(送信)している (3クラブ)
 - ・事務局よりメール 又は広報委員よりのLINE連絡
- 情報プログラム委員会が担っている

以上、「ロータリー情報委員会の無いクラブ」が、ロータリー情報を会員に伝えるには、「会長・幹事の役割」、「地区出向者」「事務局」が目立つ。

例会時に伝える事例が多いが、時間も制約されるので、必要十分な伝達ができているのか、やや不透明である。

クラブ事情が許されるのであれば、「ロータリー情報委員会」のような組織を位置付けるか、いずれかの委員会に「ロータリー情報担当者（仮称）」を置き、役割をはっきりさせるのが適当ではないだろうか。

第3章 アンケート項目（参考）

オンラインにてアンケート実施。スクリーンショットを添付。




2022-23年度ロータリー情報委員会アンケート

アクセスありがとうございます。
「クラブ運営の現状と計画について」のアンケートです。
以下のフォームにご回答をお願いいたします。

回答期限：2022年8月5日

※個人情報については、ご回答者の同意なしに第三者への提供・開示はいたしません。

◆お問い合わせ先：
ロータリー情報委員長：堀口（東京西R.C）
090-1548-7390 shoji@horiguchi-engi.co.jp
ロータリー情報委員：秋田（東京西R.C）
090-3084-5237 akita@generalc.co.jp

📧 2750.rotary.information.2022@gmail.com（共有なし）
[アカウントを切り替える](#)

*必須

回答者様についてお教えてください。

グループ名 *

回答を入力

クラブ名 *

回答を入力

回答者氏名 *

回答を入力

回答者クラブ役職 *

回答を入力

回答者連絡先（メールアドレス） *

回答を入力

回答日 *

日付

yyyy/mm/dd

1. 例会運営について

現在の例会開催方法について、お答えください。（あてはまるものを1つだけお*
選びください。）

例会場
 オンライン例会
 ハイブリッド
 休会
 その他: _____

・「例会場」「オンライン」と回答されたクラブ

例会に卓話者を呼んでいますか？

はい
 いいえ

例会にピンターやゲストを受け入れていますか？

はい
 いいえ

・「ハイブリッド」と回答されたクラブ

例会に卓話者を呼んでいますか？

はい
 いいえ

例会にピンターやゲストを受け入れていますか？

はい
 いいえ

会場出席者とオンライン出席者の比率は、どの程度ですか？

・「休会」と回答されたクラブ

例会再開はいつ頃を予定していますか？

回答を入力

再開後の例会方式をご記入ください。

- 例会場
- オンライン
- ハイブリッド
- その他: _____

2-1. 女性会員の受け入れについて

第2750地区では、女性会員の入会を推奨しています。

貴クラブでは、女性会員の入会を受け入れていますか？ *

- はい
- いいえ
- 検討している

・「はい」または「検討している」と回答したクラブ

女性会員受け入れのために、どのような取り組みをしていますか、または検討していますか？

回答を入力

2-2. 40才未満会員の受け入れについて

貴クラブでは、40才未満の会員の入会を受け入れていますか？ *

- はい
- いいえ
- 検討している

・「はい」または「検討している」と回答したクラブ

40才未満会員の入会のために、どのような取り組みをしていますか、または検討していますか？

回答を入力

3. DEI (多様性・公平さ・インクルージョン) について

RI会長と富澤カバナーは、ロータリー活動に、DEIを示すべきと考えています。

貴クラブでは、DEIを主題にした活動を計画していますか？ *

- はい
- いいえ

・「はい」と回答したクラブ

DEIを主題にした活動とは、どのような活動ですか？

回答を入力

4. 「クラブ戦略計画」について

「クラブ戦略計画」を、どのようなやり方で検討していますか？ *

回答を入力

5. ウクライナ支援について

ウクライナ支援の活動を計画していますか？ *

- はい
- いいえ

・「はい」と回答したクラブ

ウクライナ支援とは、どのような活動ですか？

回答を入力

6. ロータリー情報委員会について

貴クラブに、ロータリー情報委員会はありますか？ *

- はい
- いいえ

・「はい」と回答したクラブ

ロータリー情報委員会はどのような活動を計画していますか？ (あてはまるものを、いくつかお選びください。)

- 新会員オリエンテーション
- 貴クラブ独自の新会員セミナー
- 定款細則の修正
- マイロータリー登録推進
- 「ロータリーの友」購読の推奨
- 貴クラブ独自のロータリーガイドブック作成
- 地区役員による卓話
- その他: _____

・「いいえ」と回答したクラブ

RIや地区のロータリー情報を、会員にどなたがどのような方法で伝えていますか？

回答を入力



<発行日>2022年9月9日

<発行元>国際ロータリー第2750地区 2022-23年度

会員委員会 委員長：伊藤千恵

ロータリー情報委員会 委員長：堀口昇治

<問い合わせ先>

担当：堀口昇治（東京西ロータリークラブ） shoji@horiguchi-engi.co.jp

秋田智雄（東京西ロータリークラブ） akita@generaic.co.jp